



読字 原田 親

No. 786

2016/ 1/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒110-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

日中友好協会
岡山支部
〒700-8256
岡山市東区3-8-30 511
TEL:086(272)-3010
郵便番号1100
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8911
倉敷市連島中央1-8-4
(宮地方)
TEL:FAK086(446)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.biz/>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



新しい年を迎えて

中国を見誤ってはいけない

日中友好協会倉敷支部 理事長 栗本 泰治

明けましておめでとうございます。旧年中はいろいろお世話になりました。本年も日中友好のためによりしくお願いいたします。

私はことしの年頭に当たり、「中国を見誤ってはいけない」ということを強調したいと思います。

昨年は戦後70年に当たって、安倍首相の歴史認識が厳しく問われました。安倍首相は、それにまともに答えるどころか、戦争法制の強行をあえてしました。こういう動きに対して「アベ政治を許さない」という国民の声は高まる一方です。「アメリカにばかり顔を向けないで」「中国、アジアにもっと腰を据えてほしい」という声は、安倍外交の行く末を心配しています。かつて日中友好協会の初代理事長であった内山完造さんが、倉敷で講演し、「日本は中国と隣り合っていないながら中国をよく知らない

い。近代化に先んじ、富国強兵政策で力をつけ、日清戦争で勝ったあたりから中国を「チャンコロ」とよんで見下すようになった。そして侵略戦争に突入した。それが間違いのもとになった。

中国は、いまでは世界で最も重要な国になった。半

植民地体制を打ち破り、民族の独立と民主統一、平和、繁栄に向かいつつある。中国に対する認識を改めなければ、世界に立ち後れてしまう」と述べました。

戦争法制でも、沖縄の辺野古基地問題でも、中国が相手になっていきます。町には「反中国」の書物が氾濫しています。

百年前の歴史の教訓は、中国を見誤ったことにあるのではなかったか。

中国は、軽々しく戦争をするような国ではない。そ

戦後70年から憲法公布70年へ

日中友好協会 岡山支部事務局長 小林軍治

はじめに

昨年は、戦後70年の節目の年でした。平和安全保障関連法(戦争法)をめぐる政府・与党と国民・野党が激突した歴史的な一年でもあった。

政府・与党はこの法案を9月19日の未明に参議院本会議で数を頼んで強行し、成立させた。成立後も多くの国民

は、この暴走を決して認めないと、同法の廃止を求めて200万人署名などさまざまな運動に取り組んでいる。主権者は国民である。最後まであきらめない。

日本国憲法公布70年

憲法と共に歩む

今年、1946年11月3日に日本国憲法が公布され

これは中国の歴史をひもとけばすぐにわかることです。

中国は百年前の中国ではありません。GDPも2010年には日本を上回り、世界第2位の経済大国です。人口も14億人を超え、国土の面積もわが国の2.5倍です。

中国をもっと知ろう、隣り合っている重要な国だからもっと友好的に、という活動を今年も精一杯続けるつもりです。

70年である。私は、1946年10月に旧満州国から4歳で日本に引きあげてきた。私にとつて日本での生活は憲法と共に歩んできたといつても過言ではない。

小・中時代の9年間は、平和憲法のもとで、教え子と再び戦場に送らない」と誓った教師の指導を受けた。高校では、憲法14条(法のもとに平等)について学び、大学では、反米愛国の平和運動に参加した。

1965年4月、岡山県の高校教員に採用され、憲法99条に従い県に宣誓書を提出した。2003年3月の退職ま



参議院選挙で

与野党逆転を!

今年、7月に参議院選挙がある。戦争法を廃止して、平和主義、立憲主義、民主主義を取り戻す絶好のチャンスだ。まず参議院で、与野党の力関係を逆転させなければなりません。そのためには、32の一人区で野党が結集して統一候補で戦える状況をつくる必要がある。

野党間の協議に任せるのではなく、2000万人統一署名の請願事項「戦争法である平和安全保障法」をすみやかに廃止してください。一、立憲主義の原則を堅持し、憲法9条を守り、いかしてください」ともついでに共闘できるよう、主権者国民として行動することが求められる。

2面に続く



ネパールトレッキングで稲葉さん撮影

おわりに

―日中友好協会の役割―

日中友好運動の原点は、日中不戦不戦（日本と中国とは再び戦争しない）である。岡山支部は毎年7月7日の盧溝橋事件「9月18日の柳条湖事件」の両日、天満屋前でビラや音の宣伝をしている。昨年は、日中不戦不戦とともに戦争法反対を訴えた。

昨年、政府・与党は、戦争法を通すための口実として、中国脅威論を国会の後半で持ち出してきた。これを打ち破るためには、中国の歴史と現状について正しく知る必要がある。

日中岡山支部は、これまで

「太極拳」中国帰国者の日本語教室「中国語講座」きり

え展「中国旅行」などを実施してきた。昨年は、理解は絆を強くする。」を掲げて中国の歴史・地理・文化芸術・政治・経済などの多方面にわたる中国百科検定を岡山国際交流センターで開催した。わたしたちは、こうした取り組みを通して中国の実像を県民に知らせ「中国脅威論」の打破へとつなげていきたい。

今年も「日中不戦不戦は、憲法9条を生かす道」との立場で、草の根の日中友好運動と戦争法廃止を共に取り組んでいきたい。今年もよろしくお願いいたします。



近現代史における徴兵忌避に関する一事例

12月13日に開催された岡山・十五年戦争資料センター

総会での研究発表が杉岡康男さんから行われました。その内容が興味深かったの少しまとめてみます。杉岡さんの亡くなられたお父さんの残した遺品の中に、この資料があったそうです。

その資料の一部がコピーされて配布されました。『ニコル日本人會會報』です。ニコルとは現在のフィリピン、当時はアメリカ領比律賓群島アルバイ州レガスピのある地域だそうです。地図で確認してみると、ルソン島の最南東部に今

も大きな町レガスピがあります。

杉岡さんは、昭和16年（1941年）真珠湾攻撃の直前にお父さんの指示により、母兄弟共帰国して、故郷の岡山県吉備郡下倉村に戻っておられます。その折にお母さんにこの資料が託されていたそうです。お母さんが亡くなられて遺品を整理している時に発見されたそうです。この資料があることを杉岡さん自身も知らなかったそうです。それにしても、どうしてこの資料をお父さんはお母さんに託されたのか不思議です。

日中岡山支部望年会の続報

昨年12月20日に開催された望年会は、36人中12人が初めての参加で、大変たのしい会となりました。最高齢は、井上愛子さんと、元気にあいさつされました。今年の2月で90歳になります。

次に、初参加者の犬飼さんの感想文を紹介します。

日中岡山支部の望年会に参加して

犬飼 繁

望年会には中国からの帰国者の方が大勢参加されています。手作りの餃子やおでん、おにぎりなどを食べながら、交流を深めました。中国語講座の講師の馬小菲先生

が皆さんのあいさつを中国語や日本語に通訳され、なごやかに会が進んでゆきました。お二人の方が、私の知らない楽器を使って日中両国の歌を演奏され、みんなそれに聞きほれたり、あるいは唱和し

資料は手書きのガリ版刷りで、昭和6年12月1日第3号、内容はマニラ総領事木村淳名で発せられた告示です。内容は「昭和七年度徴集延期二関スル在外國徴集延期及在留申告書ノ受付ヲ開始ス」というものです。

真田

岡山の記憶

第17号・2015年



編集：歴史図説、昭和の70年

岡山・十五年戦争資料センター

たりして楽しみました。山根さんは76歳で、中国残留孤児だったそうですが、中国で育ててくれた養父母に先立たれ、文化大革命中は農村に下放されたそうです。自身の人生の軌跡を歌にしようと思った。山根さんの今まで生きてきた様々な思いが込められた、心を打つ歌でした。帰国者の方々が口々に小林事務局長に感謝の意を述べておられました。あらためて小林事務局長の活動がいかに多くの帰国者の力になってきたかを実感した会でした。馬先生に誘われて倉敷芸術科学大学芸術学部川上幸之助教授も学生を連れて参加さ



挨拶をする犬飼さん

れました。私は3月まで担任していた生徒3人が、倉敷芸術科学大学芸術部に入學していたので、3人の様子を川上助教授から聞いたことも想定外の喜びでした。

次回の新聞送付作業は1月21日（木）午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

小林 和製
竹内 内製